

琉橋への挑戦

第3回 WUB世界大会

▷5◁

「沖縄の世界的ネットワークは、中国人やユダヤ人に比べて人数が少ないうえ、バックグラウンドとして『ウチナーンチュ精神』という家族的なきずなでつながっていることが実感できた。WUBの活動は若い人の可能性を広げ、世界市民となることに役立つと思う」

家族的なきずな実感

ウチナーンチュネット確立へ

WUBインターナショナルのロバート仲宗根会長は第三回世界大会を閉幕するにあたり、ウチナーンチュ意識を強調し、世界的な民族ネットワークの確立を期待した。大会では、単にビジネスだけでなく人材育成を兼ねた教育に力を入れ

ていくことや、各国の日系人企業家の業種ごとの組織化、人的、技術的交流の強化、WUB投資会

社員の紹介、ミートアップ、今後の具体的に行うことが確認された。さらに、WUBの中に

①インターネット関連の流通②建設③不動産④旅行業⑤サミット支援コミッションの六つの委員会が結成された。

部が国に持ち帰り、会員間の流通業組織をまとめることになった。建設と不動産部会は①社員研修など人的交流の沖縄の歴史や風土を知っている海外のウチナーンチュ設計士に住居や建物の設計をしてもらい、沖縄での活躍の場を提供す

る。WUB世界大会は、三回目を迎え、徐々にではあるが、ネットワーク確立に向けて具体的に動き出した。大会に参加した

部が国に持ち帰り、会員間の流通業組織をまとめることになった。建設と不動産部会は①社員研修など人的交流の沖縄の歴史や風土を知っている海外のウチナーンチュ設計士に住居や建物の設計をしてもらい、沖縄での活躍の場を提供する。WUB世界大会は、三回目を迎え、徐々にではあるが、ネットワーク確立に向けて具体的に動き出した。大会に参加した

から大きいと思われているので、期待に沿うように「けんかをしない」と仲良く足元を見詰め直して組織強化に努める。プランなどもあるように、相違点を



第3回WUB世界大会閉幕後、記念撮影するWUBの会員ら。ラスベガスのゴールデンゲートホテル

「サバニマガジン」という月刊誌をハワイで発行し、WUB会員や新しいプロジェクト、ビジネスアイデアなどの活動を紹介したい」(ハワイに移すことが大事だ)としたい(東京、重田辰弥氏)。「皆が頑張っ

ていることが実感できた。自分たちも恥をかかないように頑張らないといけない。言葉の壁を超えるための教育の必要性を感じた」(マツダ、与那嶺真次氏)。「WUBの目標は一つ。時間や手間がかかっても全員を理解を得て進捗してほしい。会議で決めたことは確実に実行したい。今からがもっと大事だ」(ポリア、島金文氏)。「ペルーは私たちの努力で七万の日系社会をつくり上げた。WUBを通じて先人の努力の結果をさらに広げたい」(ペルー、メルメント金城氏)。

次の世界大会はサミット前の五月二十二日から二十一日まで六日間の日程で沖縄で開催される(政務部・宜保晴)(おわり)